

「対話 ウイルス肝炎」

国立長崎中央病院臨床研究部長 矢 野 右 人
信州大学助教授・内科 清 澤 研 道

奈良県立医科大学教授・第3内科

辻 井 正

ウイルス肝炎に関する基礎的・臨床的研究の進歩は目覚ましく、肝炎ウイルスマーカーの開発、インターフェロン療法の導入によってウイルス肝炎の診療はひとしお活気を呈している。この時期に医学書院から矢野右人・清澤研道両博士による「対話 ウイルス肝炎」が出版された。実力者2人が対話形式でウイルス肝炎を論じたユニークな書籍である。

通読して驚嘆した。素晴らしい本が上梓されたものである。長年にわたって多数の肝疾患患者と対峙し、その道一筋に全力を傾け、診療を通じて湧き出る問題点を自らの臨床研究によって解決すべく尽力されてきた真の実力派の2人がウイルス肝炎の診断と治療、そして予防の実際を余すところなく語り尽した本である。しかもその背景には2人のアカデミックな姿勢がにじみ出ており、科学的証拠に裏付けられた論理性に富んだ内容である。

従来の成書、参考書の類いとは明

らかに一線を画することは目次を見ればすぐに理解できる。各章、各項の内容はそれぞれ更に細目に分かれ、ワンポイントずつ要点、問題点、質疑として提起し、2人の間で質問と回答といったやりとりにより話が進む。しかも質疑応答の内容はわれわれが知りたいことはすべて網羅されており、なによりも成書にみるような一方通行的でないのがよい。本書は目次を追えば自分と同様の質問に必ず遭遇する。そして必ずや満足する回答が得られるはずである。加えて本書は話し言葉で書かれているので、あたかも読者と著者が膝を交えて語り合っている感じで、読みやすく、理解しやすい。成書では味わえない雰囲気が読者にとって楽しい。

ちなみに、本書の構成は6章、19項目より成っている。第1章：ウイルス肝炎の分類、診断と疫学。(A)ウイルス肝炎説明の流れ。(B)ウイルス肝炎の診断。(C)ウイルス肝炎

の疫学。(D)肝炎患者の基本的な診かた。第II章：急性肝炎。(A)A型肝炎。(B)B型肝炎。(C)C型肝炎。(D)D型肝炎。(E)E型肝炎。(F)劇症肝炎。第III章：慢性肝炎。(A)慢性肝炎の検査と診断。(B)B型慢性肝炎。(C)C型慢性肝炎。第IV章：肝硬変。(A)肝硬変の病態分類と鑑別診断。(B)肝硬変の治療。第V章：肝炎ウイルス起因肝癌。第VI章ウイルス肝炎の予防。(A)A型肝炎の予防とワクチン。(B)B型肝炎の予防とワクチン。(C)B型肝炎母子感染予防。(D)C型肝炎の予防。

本書は一般医家のウイルス肝炎診療に直ちに役立つことはもちろんのこと、肝臓専門医あるいは専門医を目指す者にとっても知識の整理とupdateな知識の吸収に大いに貢献するものと確信する。

● A5 228頁 図41 1993 定価
3,914円(税込) ㊦400

医学書院 刊(㊦03-3817-5657)